Hiroshima Satoyama Good Award Official Guide Book

ひろしま里山グッドアワード
公式ガイドブック【令和5年度版】

里山・里海での活動をさらに広めていきたいあなたへ

P02 ひろしま里山グッドアワードのしくみ
P04 令和5年度授賞式の様子
P05～P26 令和5年度受賞団体紹介
令和4年度受賞団体のその後

尾道市生口島から眺める瀬戸内海の風景。

広島の里山・里海には、
中山間地域と言われるエリアが広がっています。

そこには、さまざまな課題と向き合いながら
地域を元気にするべく立ち上がり
ひたむきに活動を続ける人たちがいます。

熱意ある取り組みによって生まれる
〝地域の新しい価値〟を
あなたも一緒に感じてみてください。

ひろしま里山グッドアワードとは？

広島県の中山間地域にあるものを生かし、新しい価値の創造につなげている優れた取組を表彰し、そのプロセスやノウハウを共有することによって取組のさらなる普及促進をはかるというものです。具体的な流れは以下の通りです。

令和５年度グッドアワードの流れ

01 取組募集

１ヶ月～１ヶ月半ほどの期間を設けて魅力的な取組を公募。公募方法は、各活動実践者がプランに関する情報を専用フォーマットに記載してエントリー。

02 一次審査

応募があった各プランの資料をもとに審査会を開催。アドバイザーの意見を参考にしながら、広島県が５件を選定。

03 一般投票

一次審査を通過した取組が、公式ホームページ上で公開されたあと一般投票。パソコン、モバイル、タブレットから１人につき２団体まで投票。

04 授賞式

一般投票の得票数をもとに、広島県が「さとやま未来大賞」「未来のたね賞」「入賞」を決定。授賞式では、知事から賞状の授与や意見交換会などを実施。

審査員の紹介

藻谷　浩介
株式会社日本総合研究所 主席研究員

新里　カオリ
立花テキスタイル研究所 所長

新條　隼人
株式会社ドットライフ 代表取締役

評価項目

独創性
地域にある資源（物産品、自然、人、歴史・文化等）を活かしているか。また、資源を活かすアイデアや仕組みを作り出す発想が独創的であるか。

課題解決
地域の活力となるような新たな価値を生み出しており、地域の実情に即した課題の解決につながるものとなっているか。

持続性
一過性の取組ではなく、取組を継続していくために人材や財源の確保などの工夫をしているか。また、地域内外の人や団体と連携した取組となっているか。

波及性
他の地域や団体のモデルとなるようなアイデアや仕組みが盛り込まれているか。

投票促進の活動

「ひろしま里山グッドアワード」の一般投票審査では、WEB ページ上で各団体の活動紹介を行い、一般の方は１名につき２団体へ投票していただきます。一次審査を通過した団体は、約２ヶ月にわたり、さまざまな方法で投票促進活動を行っています。令和５年度は、一次審査を通過した２団体の拠点が同じ島だったこともあり、合同でチラシを作って投票を依頼するなど独自の工夫をされていました。このように、一般投票を通じてチームでの連携も増え、地域内外での共感者と繋がるきっかけになっています。

令和５年度の結果

令和５年度は 3,000 人を超える皆さんが一般投票に参加しました！

令和５年度は、18 組の団体がエントリーし、一次審査を通過した５組を対象に、10 月２日から 11 月 30 日までの約２ヶ月間、WEB サイト上で一般投票が行われました。各団体に寄せられるコメントからも、地域で活動するそれぞれの方を応援したい！という熱い想いが感じられました。

総投票数

6,102

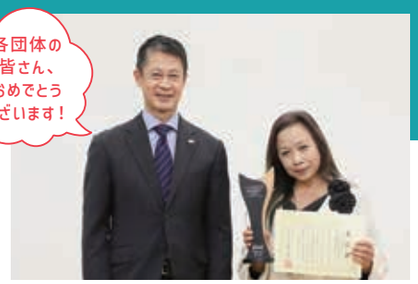
みなさま、ご投票
ありがとうございました！

【一次審査通過団体】※エントリー順

- 生口島ごちそうの森
- さいさい来ん彩女子畑
- 一般社団法人コジマ・ムジカ・コレギア
- JINSEKI BASE
- KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE

令和５年度 ひろしま里山グッドアワード
授賞式・座談会のようす

令和５年度の表彰式は、12 月９日（土）に行われました。会場となった安芸高田市は、令和４年度のさとやま未来大賞を受賞した「株式会社リビングファーム広島」さんが活動されている地域です。



【湯﨑知事よりコメント】

中山間地域の課題を乗り越えていくためには、地域の資源を総動員していくことが必要です。地域にあるものを活かし、新たな価値を生み出そうとされる受賞者の皆さんの取組の輪の、更なる広がりを期待しています。

湯﨑知事との積極的な意見交換で活動のモチベーションもアップ

今年度の「さとやま未来大賞」は合計 1,582 票を獲得した「島から始まる国際音楽祭～生口島魅力再発見プロジェクト」の取組を行う「一般社団法人コジマ・ムジカ・コレギア」が受賞。表彰式では、入賞した５団体に知事から直接表彰状とトロフィーや盾が贈られました。座談会では、それぞれの活動の説明や直接知事に質問をする時間も設けられ、各団体の代表者とともに活発な意見交換が行われました。

新型コロナによる制限も緩和された今年は、一般の参加者も表彰式に出席。各団体の応援者や地域活動に興味のある方が来場し、各団体同士の交流も弾んでいる様子でした。

令和５年度 受賞団体紹介

令和５年度の受賞５団体を紹介します。それぞれに想いのこもった活動です。詳細や活動風景をぜひご覧ください。

さとやま未来大賞

一般社団法人
コジマ・ムジカ・コレギア

未来のたね賞

さいさい来ん彩女子畑

入賞

生口島ごちそうの森

入賞

JINSEKI BASE

入賞

KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE

令和5年度
受賞団体紹介
01

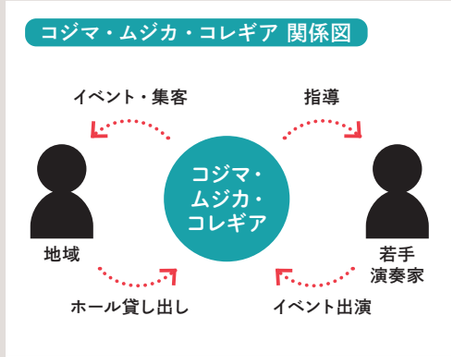
さとやま未来大賞

“島から始まる国際音楽祭 ～生口島魅力再発見プロジェクト”

メンバー
代表 小島燎さん
小島朋子さん

一般社団法人コジマ・ムジカ・コレギア　尾道市瀬戸田町

【団体プロフィール】
NHK交響楽団、広島交響楽団などで経験を積んだヴァイオリニストの故・小島秀夫さんが、故郷広島の文化発展と青少年の豊かな成長を願って1992年に立ち上げた音楽活動団体。現在は日仏でヴァイオリニストとして活躍する長男の小島燎氏が代表を務める。



地域を巻き込む音楽会でクラシックをもっと身近に

私たち「一般社団法人コジマ・ムジカ・コレギア」は、1992年の創立以来、音楽を通じた青少年育成をテーマに定期演奏会、ジュニアオーケストラ、しまなみ音楽祭／5月の尾道音楽学校の3つを主軸に活動してきました。それに加え、2020年からは音楽祭「しまなみ海道・秋の音楽休暇村」を、瀬戸田町の「ベル・カントホール」をメイン会場に開催しています。

現代表の小島燎は5歳からヴァイオリンを始め、現在は日仏を往復しながら活動し、フランス国立オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ管弦楽団の副コンサートマスターを務めています。さまざまな音楽シーンに演奏家として参加し、その中で、フランスと日本の音楽に対する感覚の違いを感じました。

日本人は「クラシック＝敷居が高い」と思いがちですが、フランスではもっとラフに音楽に親しめる機会がたくさんあります。また、田舎町では演奏者と観客の境がなく、演奏後には一緒にお酒を飲むこともあります。

瀬戸田には、音響の素晴らしさで名高い「ベル・カントホール」がありながらも、なかなか活用されていないという現状もありました。そのため、私たちが理想とする音楽祭をここで開催する意義があると思い、この音楽祭を企画しました。

2023年には、念願だったフランスの演奏家を呼んで開催することができました。計5日間の開催中、延べ約1000人のお客様にご来場いただき、クラシック音楽を身近に感じながら楽しんでいただけたと思います。また、音楽を通じて瀬戸田町という町の魅力を知っていただくきっかけにもなったのではないかと思います。

2023年10月28日に行われたのは因島にある万田発酵株式会社のHAKKOホール。演奏者には、2024年7月より広島交響楽団コンサートマスターに就任する北田千尋さんなど豪華な顔ぶれ。

右／コンサートまでには、ゲリラライブも行い、一般客にもわかるような有名な曲を演奏した。中／代表の小島燎さん。左／生口島「ベル・カントホール」ではマルシェを同時開催した。

マルシェの様子。大きな芝生の広場にテントが並び、コーヒーやスイーツ、雑貨や花屋さんなど、フランスっぽさにこだわったお店が並ぶ。野外でのライブもある。

若い世代が本物に触れる場を演奏家の次世代育成がルーツ

団体の創設者である小島秀夫は、設立当時、広島交響楽団のコンサートマスターでした。しかし50歳を過ぎた頃から、自分が演奏するだけでは不十分だと感じ、次世代の演奏家や音楽愛好家の育成をしようと考え始めました。また、それは原爆で焼け野原になったこの町で音楽に出会い、音楽を愛する人々に支えられてここまで音楽を続けてこられたという、地域への恩返しでもありました。

開始当初は広島県からの依頼で、県内の学校を周りながら演奏していく仕事などをさせてもらいましたが、継続的に活動していくため、1993年から「コジマ・ムジカ・コレギア（意味：コジマと音楽仲間たち）定期演奏会」という名前の自主企画のコンサートを始めました。

創設者の小島は高校時代、あるコンサートでヴァイオリニストが急遽出られなくなり、代役を務めた経験がありました。そこから本格的に音楽の道を目指した経緯があり、学生時代にきっかけを与えることは、その後の人生を左右すると身をもって知っていました。

そのため活動開始後は、学生や子どもたちのレベルに合わせながら、プロの演奏家との共演の機会を作ったり、ジュニアオーケストラを結成して指導に当たったりしていました。

また、しまなみ音楽祭／5月の尾道音楽学校というイベントでは、若手音楽家のための期間限定の音楽学校のような形で、数日間さまざまな指導者を呼んでレッスンを受けられる会も実施しています。こういった活動を通して、世界的に活躍する演奏家のみならず、音楽を愛する青少年がたくさん誕生しています。子どもたちの未来のために活動してきたことがこうして実っていることに、ただありがたさを感じています。

お客さんは思い思いの場所で飲食をしたり、買い物を楽しんだりしている。

言語を超える音楽をツールに中山間地域の魅力を伝える

以前から私たちの音楽会では、コンサート前後の歓談の時間も楽しんでもらいたいと思い、カフェなどを出店していました。2023年度の「しまなみ海道・秋の音楽休暇村」では、ボンジュールマルシェと題して初めて大規模なマルシェを同時開催しました。瀬戸田町のしまなみ商工会青年部さんも、共催として協力してくださり、2日間で約30店舗が出店しました。

たとえばチェコのカレル橋というエリアでは、道端で大道芸人が芸を披露し、その反対側では弦楽器を演奏している人がいます。そんな中人々は、沈んでゆく夕陽をお酒を飲みながら眺めて楽しんでいるという、美しい風景があります。

生口島から見える風景。音楽としまなみの風景を共に味わうイベントは、島を巡るきっかけにもなっている。

景観が美しく、文化的な施設も揃っている生口島にそんな素敵な空間を再現し、もっとカジュアルに音楽を楽しむ時間を知っていただきたかったのです。

私たちは、音楽は人を繋げるツールだと思っています。異国の地で、言葉は通じなくても音楽で分かり合えることを何度も経験してきました。一緒に合奏すれば観客とも心がつながるのです。

そしてこれからは、音楽をツールにして地域を盛り上げ、社会的にも面白い活動にしていきたいと思っています。地域にとって、直面する課題解決が優先されるのは当然ですが、そもそも地域に素敵な物事がなければ住み続けたいと思ったり、移住したいと思う人はやって来ません。

私たちは、質の高い芸術に触れる機会を地域で提供し続けることにより、都市部からの人の流れを作り地域活性化に繋がると考えます。今後も、しまなみを拠点に音楽や文化を発信して地域を盛り上げつつ、音楽で地域づくりを行う全国的なモデルケースになれるよう尽力していきたいと思います。

代表の小島さんからひとこと

気軽に楽しめる音楽でもっと地域をおもしろく

大人も子どもも音楽で「遊べる」ような1日をと願い、この企画を立ち上げました。美しい風景のなかで若いアーティストたちが輝くステージを通して、きっとその楽しさに気付いていただけると思います。

コジマ・ムジカ・コレギアのお問い合わせ先・HP

【一般社団法人コジマ・ムジカ・コレギア】

秋の音楽休暇村 HP

コジマ・ムジカ・コレギア HP

令和5年度
受賞団体紹介
02

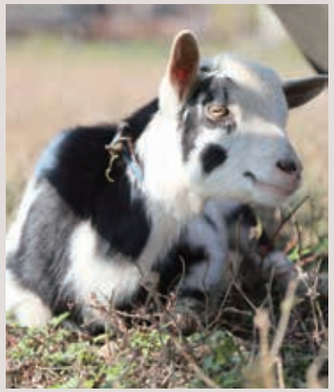
未来のたね賞

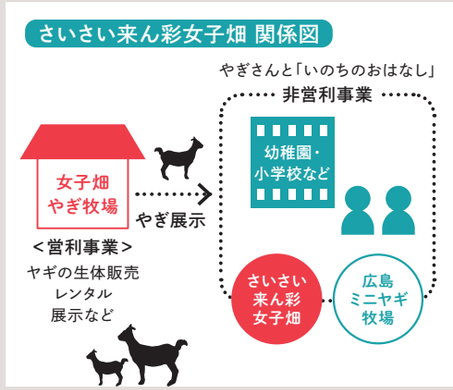
“やぎさんと「いのちのおはなし」出張ふれあい事業”

メンバー
代表 割方遥花さん
ほか４名

さいさい来ん彩女子畑（おなごばた） 呉市安浦町

【団体プロフィール】
呉市安浦町女子畑地区の休耕地を活用し育てたヤギたちを連れ、保育園・幼稚園・小学校を訪問しています。





右／割方さんのところで飼育されているやぎは体の小さい種類が多い。中・左上下／ふれあい事業では、学年ごとに合わせて体験を実施している。

やぎとのふれあいを通して いのちを感じる感性を養う

「さいさい来ん彩女子畑」は、やぎの販売・レンタル事業を行う「女子畑やぎ牧場」が地域の方や学生とともに行っているボランティア団体です。近隣の幼稚園や保育園・小学校等に出向いて開催する、情操教育プログラム『やぎさんと「いのちのおはなし」』を非営利事業として運営しています。

講師には、やぎ牧場の先輩でもある「広島ミニヤギ牧場」の菅原先生にお越しいただき、プログラムへのアドバイスもいただいています。

出張ふれあい事業「いのちのおはなし」は、保育園～小学校まで、ご依頼があれば主に子やぎを連れて行っています。実際に牧場で撮影したやぎの出産動画を上映し、いのちが生まれることについてのお話をした後、ふれあい体験を行います。生後1週間ほどでぴょんぴょんはねて活発になるので、子どもたちも楽しくふれあえます。抱っこしたり、聴診器で心音を聞いたりすると、子どもたちの表情がパッと明るくなったり、驚いたりします。普段はあまり感情が出ないような子が、やぎの赤ちゃんと触れ合うことで喜んでいる様子が見られたり、集団に入るのが苦手な子が、やぎに触れたいから勇気を持って自分から歩み寄ったりするなど、子どもたちにいい変化が出たと報告をいただきました。

これまで3年間で、のべ900人以上の子どもたちがこの「いのちのおはなし」を体験してくれました。本物の動物に触れて、ぬくもりや鼓動でいのちを感じることは、子どもたちの成長過程においてとても大切な時間になっていると感じます。現在は呉市内からのご依頼が中心ですが、やぎに負担がない程度の場所であれば出張可能です。

「楽しかった！」「頑張って生きていた！」など、子どもらしい感想をもらうことが、活力になっているそう。

現在は、元保育士さんや生物学を研究している広島大学の学生さんなど４名がボランティアとして参加。共感して集まってくれている人たちとともに出張事業を行っている。

西日本豪雨に被災して感じた人のやさしさと地域への感謝

女子畑地区は夫の地元で、結婚後に引っ越してきました。少子高齢化が進んでいて、この地区にあった小学校は10年以上前に廃校になっています。地元の人が代々家を受け継いでいるので、名前を言えば住んでいる地区がわかるほどの場所です。

そんな地域でこの事業を始めたのは、西日本豪雨で被災したことが大きなきっかけです。それまでは、正直この地域にそんなに愛着があるわけではありませんでした。むしろ、休日の度に行う草刈りの煩わしさや、夫が作業している間のワンオペ育児で、いろいろな不満が溜まっていました。

そんな中で起こった豪雨災害。安浦町も大きな被害を受けました。その光景を目の当たりにして、私は今後どうやって生きていこう、と真剣に悩みました。しかし支援してくださる方は、この地域に住む人のことをとても大事にして毎日助けてくださいました。また、自分の故郷を失いかけて落ち込む夫の姿や、地元に愛着を持つ人々と日々接したことで、私の心境も変化し、たくさん助けてもらっているこの地域を大事にしたいと思い始めたのです。

しかし、では何をすればいいの？と悶々としていました。そんなとき、やぎに畑の草を食べてもらう除草法があると知りました。もともと、小学生の頃には生き物係をするほど動物が大好きだったので、最初は自分の土地の草刈りのために飼い始めました。やがて、地域でも活躍できるやぎを飼うべく資格を取ることにしたのです。資格取得のための実務経験は、下蒲刈島で18年前から除草用のミニヤギ飼育などを行う「広島ミニヤギ牧場」の菅原さんのもとで研修をさせてもらいました。育児をしながら1年間牧場に通って動物取扱業という資格を取り、今の牧場をスタートしました。

右／割方さんの２人の息子さんも生き物が大好きで、いつも率先して餌やりを手伝ってくれるそう。中／11月に出産したばかりのやぎの親子。左／子どもたちとヤギのふれあい体験の中で、いきいきと楽しそうな割方さん。

子ども心に憧れていた「地域のおばちゃん」を目指して

現在新たに準備しているのが羊毛を使った事業です。きっかけは、やぎがレンタルで出払ってしまうことがあり、そんな時に羊が草を食べてくれることを知り、さらにその羊毛で小学生たちと楽しいことができたらいいな、と考えたからです。

令和5年度のチーム５００の「元気さとやま応援プロジェクト補助金」を活用して、羊の購入や羊のための小屋を作りました。これまでは、私たちが出張に行くことばかりでしたが、今後は、小学校の子どもたちを女子畑やぎ牧場に招きたいと考えています。牧場で実際に羊の毛刈りの体験をしたり、刈り取った毛を小学校に持ち帰って、羊毛を使ったモビール作りや毛糸づくりなどをしてみたいと構想中です。

これらの事業を行うことで伝えたいのは、地域へ愛着を持つことの素晴らしさです。中山間地域に住んでいる子どもたちが、自分の地域の魅力に気づいて故郷に愛着を持ってくれたらいいなと思っています。

私自身が小学生のころ、実家が豆腐屋さんをしている同級生がいました。その子のお母さんから課外授業として、自分たちで育てた大豆を使った豆腐作りを教わったことがありました。教科書の勉強ではない体験を通した楽しさが、今でも心に残っているのです。この事業を始めた時にも「あのお母さんみたいになりたい」と思っていました。

私が感じたように、地域の人と関わる楽しさは、きっと子どもたちの心にも残ると思います。大人になった時に、自分の地域にはこんな面白いことがあったんだ、と誇らしく思い出してくれたらうれしいです。今はそのための種まきの時期です。地域で仕事をしながら子どもたちと関わり、子どものころ憧れていたような「地域のおばちゃん」になっていけたらいいなと思っています。

体験前は緊張していた子どもたちも、終わる頃には「やぎさんバイバーイ！」と大きな声をかけてくれる。先生からも、子どもの成長を感じられて喜ばれている。

リーダーの割方さんからひとこと

私にできることで地域の人々への恩返し

いつもいろいろな面で助けてくださる地域の方へ、やぎの事業を通して恩返ししているような気持ちです。これからも女子畑地区で楽しく活動していきたいです。

女子畑やぎ牧場のお問い合わせ先・SNS

【女子畑やぎ牧場】

住所：呉市安浦町大字女子畑 1365-4

HP

令和5年度
受賞団体紹介
03

入賞

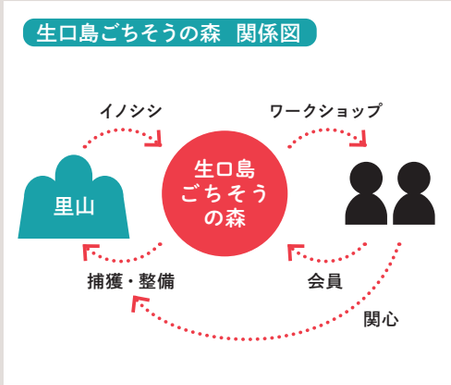
“猪を通じて自然を学び、遊び尽くす、里山丸ごとワークショッププロジェクト”

メンバー
長光祥子さん

生口島ごちそうの森　尾道市生口島

【団体プロフィール】

「森から暮らしをつくる仲間を増やす」をコンセプトに、生口島の自然と人々の暮らしが繋がっていることを感じてもらえるコミュニティを作るプロジェクト。



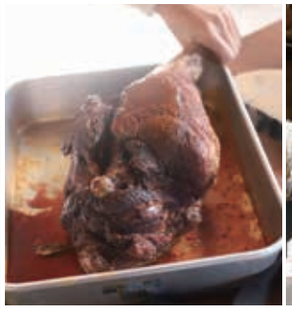
わざわざ食べたい猪料理で「処分」から「活用」へ意識改革

私が運営する「生口島ごちそうの森」は、自然豊かな尾道市生口島の山の上で、猪の解体ワークショップや料理を作るワークショップなどを開催するプロジェクトです。具体的には、地元の猟友会に所属する私が、実際に捕獲した猪を解体して食べられる部分を捌いたり、事前に作っておいた加工肉で料理をしたりします。現在は会員制を基本としていて、毎年だいたい30人ほどが登録してくださっています。その中でもコアメンバーの方は、ワークショップを手伝ってくださることもあります。

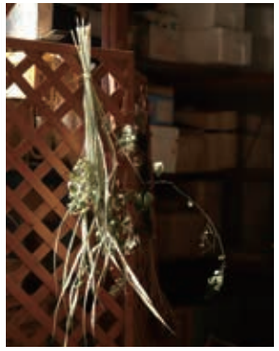
依頼があれば、ケータリングで出張することもある。一枚板の上には、たくさんの野菜と猪肉を使ったハムなどが並び、盛り付けには山から採ってきた植物も活用している。

中山間地域で田畑を荒らすなどの問題が多い猪は、獣害指定されており駆除の対象です。しかし私は、猪が悪いのではなく共存ができなくなった今の暮らし方に問題があると思っています。そのため、このプロジェクトで目指すのは、猪を処分するための料理ではなく〝美味しいから食べる〟と自分の意志で選んでいただけるような料理の提供です。そのため、大前提として料理が美味しく、美しいことにもこだわっております。

そのため「シャルキュトリ」と言われる食肉加工の技術を独学で研究し、主に猪のお肉で作ったハムやベーコンなどを提供しています。一般的に言われる臭みの原因は、解体時の処理が不十分なことから起こるため、丁寧に処理されていれば臭みはほぼありません。さらに、その肉質に合わせてハムやベーコンなどに加工していくため、肉の持つ美味しさをしっかり活かすことができます。それまで猪が苦手だった方に食べていただくと、「猪って美味しいんだ！」と気に入っていただけることがほとんどです。



右／「生口島ごちそうの森」は倉庫を改装して厨房等を整備した。中／猪のもも肉を丸ごと調理した長光さんの自慢の一品。左上／楽しそうにケータリングの料理を取るお客さん。長光さんの料理は猪お肉がメインだが、生口島の野菜や柑橘を使った料理も味わうことができる。左下／狩猟中の長光さん。



右／野草などを生かしたスワッグ作りワークショップなども構想中。中／狩猟した猪の解体ワークショップには子どもたちも参加することがある。左／山歩きをしながら木の種類や森の仕組みを説明する長光さん。

「山のことが知りたい」と猟友会の師匠に弟子入り

この場所で猟師をはじめたきっかけには、幼少期から抱いていた夢が関わっています。地元は大阪の市街地で、いわゆる〝田舎のばあちゃん家〟という場所がありません。自然に触れる経験がほぼない中で育ったため、その頃からずっと、自然豊かな場所にあるおばあちゃん家のような暮らしが夢でした。

また、食べることも好きでした。父が釣ってきた魚で料理して食べるなど、外食よりも作って食べる楽しさを感じられる家で育ちました。大学時代には国際情勢や貧困問題などを学び、この分野においての〝食〟の重要性を知ったのです。貧しさとは、満足な食事や選択ができないことです。そういった学びの中で自分自身の生き方を考え、その頃から地域にあるものを食べることや想いのある生産者の作ったものを食べるということを伝えていきたいと考えていました。

猟師を始めたのは12年ほど前です。それまで、食品流通関係の会社に勤務し、生産者側になりたいという思いから、生口島の畜産や柑橘を生産する農家さんのところで長期の研修を行いました。山の中での研修が始まり、憧れていた自然の中での日々に喜びを感じたのも束の間。私は自然のことを何も知らない未熟さをすぐに痛感することになりました。その頃ちょうど地元の猟友会のおじさんに出会い、翌日には一緒に山に入りました。すると、今まで名前も知らなかった目の前のただの雑草が、薬草になったり食材になったりしていくのです。私はとにかく感動しきりでした。「生きるってこういうことだ！」というリアルな体験から得た喜びが、私の目指す理想的な生き方にも繋がっていると確信し、現在のごちそうの森を始める考え方のベースになっています。

山歩きの最中には、草の役割や猪が溝を掘った跡なども教えてくれる。

「自然との共生」の第一歩は〝敵意識〟を変えていくこと

私が大切にしていることは「森から暮らしを作る仲間を作る」というコンセプトのもと、自然との共生を一緒に考えてもらう時間です。現代人は、自然に対する敵意識が強いです。雑草が生えれば根こそぎ草を刈り取ったり、猪を獣害として駆除したり。しかし彼らは、自然界の流れから見れば、今そこに必要だから存在しています。単に駆除するのではなく「猪が美味しいから食べる」というポジティブな選択肢が、美味しさに感動→自分で取ればもっと美味しい→猟師が増えて猪の個体数も減る、という心地よい流れを作ると考えます。

「生口島ごちそうの森」は、屋外にも果樹の木や畑などがあり、自然を楽しむ時間のためにこれからも手を加えていくとのこと。

現在は耕作放棄地を森に戻していくためのお手伝いも始めています。人口が減る中、耕作放棄地をただ活用し続けるのも限界があると思うからです。県外のとある地域で実施された、点在していた畑を集約して、放棄地を森に戻しながら猪が住むエリアと畑エリアを棲み分け、獣害被害を減らしたという事例も参考にしています。

また、人が山に入ることは植物や草を間引くことができ、森に還るサイクルを早めることに繋がります。ワークショップで、山の木々でスワッグを作ったりテーブルを盛り付けたりしながら、自然を生かす喜びを感じられる生き方を伝えていきたいです。

今、消費中心ではない生き方をしたい人はたくさんいます。しかし、何からやっていいかわからない人がほとんどです。私も初めはそうでした。縁もゆかりもない場所にいきなり移住するのも抵抗があるし、猟師もまだハードルが高い…。そう感じている人にこそ、この「ごちそうの森」に来て、自分らしく里山と関わるスタイルを見つけてほしいです。

長光さんからひとこと　多くを与える自然に私たちの気持ちを返したい

人間は、自然から多くのものをいただいています。自然があるから生きている、という当たり前ですが忘れがちなことを、ここでの体験を通して感じてもらいたいです。

生口島ごちそうの森のお問い合わせ先・SNS

【生口島ごちそうの森】

住所：広島県尾道市瀬戸田町中野５２８

HP

令和5年度
受賞団体紹介
04

入賞

“ご当地キャンプブランドで神石高原町を変える”

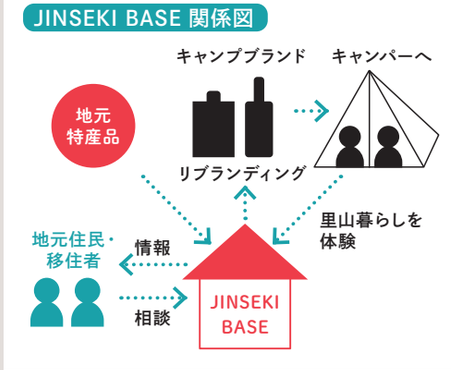
メンバー

代表　岸本恭子さん、圓道正嗣さん、三石伸一さん、赤迫瑠奈さん

JINSEKI BASE（ジンセキベース）　神石高原町

【団体プロフィール】

地域課題を解決しながら、地元産品をリブランディングしたキャンプブランドで移住者を増やすなどの活動を行う。



右／一番人気の「シャンディガフベース」は地元産生姜を使ったシロップをビールに注ぐだけで美味しいシャンディガフができる。中・左上下／古民家体験施設にはかまどやキッチンも完備。薪ストーブで調理をしながら屋内でキャンプを楽しめる。

地元産品をリブランディング キャンプブランドで移住促進へ

私たちは2020年から、移住促進を目指して、キャンプブランド「JINSEKI BASE」を立ち上げ、現在、大きく分けて3つの活動を行っています。1つ目は、地域特産品のリブランド企画と販売です。以前から販売されているものを、私たち独自のパッケージやラベルをつけて販売しています。商品の中身はなるべくシンプルな素材のみで作られたものにこだわってセレクトしているので、それを連想させるナチュラルなデザインにしました。また、軽い容器で従来より量も減らすなど、キャンプ時に使いやすいものにしています。

2つ目は、それらの商品を活用し、キャンプの聖地として町に人を呼び込み、移住定住促進に繋げていくことです。神石高原町は、広島県内で人口減少が一番深刻な地域であり、このままでは町の存続は危うい状況です。そんな中、コロナ禍を機に一気に人気が高まったキャンプ。このビッグワードに絡めて、商品と共に、QRコードを活用した町の情報発信を行って地域を知ってもらい、ここでの暮らしにも興味を持ってもらおうと考えています。

3つ目は、古民家を改装した体験施設の運営です。周辺は自然豊かで、夏には蛍が見られる小さな川もあります。施設の床はあえてコンクリートを敷いているので、屋内でキャンプが楽しめます。今後は、日帰りで町を感じる施設として運営していく予定です。

また神石高原町には以前から、「神石高原ティアガルテン」というキャンプ施設や、道の駅でのキャンピングカーのレンタルサービスなどが揃っています。そこに私たちの商品が加わることで、今後さらにキャンプというテーマで町を盛り上げていこうとしています。

商品は現在７品。神石高原町内以外に、オンラインでも購入できる。今後も増加していく予定。

地元を愛する同志が集まり10年越しの思いを実現

普段はそれぞれに本業をもつメンバー。なかなか全員が集まれなくても、お互いの家族にも手伝ってもらいながら活動している。

この活動を始めるきっかけになったのは、町の人口減少と私自身の趣味であるキャンプです。私は、高校進学によって町を出ていましたが、結婚を機に10年ほど前にUターン。遠隔で仕事ができるWEBデザイナーとして働きながら、家業の車屋を手伝っていました。プライベートではよくキャンプに行っていましたが、その頃から町の特産品の調味料や食品が、アウトドア料理にも役立つと感じていました。

それと同時期に、地元の人口減少を食い止めるために何かできないかという話を、30年来の友人である圓道さんとよく話していたのです。圓道さんはずっと町内で暮らしていますが、仕事はほぼ町外に出ていくという状況で、いつかは直接的に地元のためになる仕事をしたいと考えていたそうです。同じく30年来の友人である三石さんは、町役場で勤務したあと、現在は「神石協働支援センター」のセンター長を務めています。仕事柄、地域課題を現場でリアルに感じていました。3人のそれぞれの地域への思いを集結して、2020年から本格的に活動を開始。約10年前から考えていた地域産品のキャンプブランド化に着手することになったのです。

また、2023年には、地元出身の赤迫さんも加入。一度町外に出たあと地域おこし協力隊として帰郷した彼女は、私たちの活動を見て「地元で一緒に面白いことがしたい」と声をかけてくれました。

現在はそれぞれ本業を持ちながらも、家族ぐるみでこのプロジェクトに関わっています。活動開始から4年目にして、徐々に人を惹きつける力を持つ活動になっていると実感しています。

右／体験施設の2階からの眺め。目の前には夏に蛍も見られるほど水の綺麗な川が流れる。中／キャンドルはひとつひとつメンバーが手作りしている。左／代表の岸本さん。

地元の課題解決のために双方向から拠点となる場所

現在は食品だけでなく、虫除けもできる竹のキャンドルなども販売し始めました。地元の竹林を整備した時に出た竹を、何かに使って欲しいと提供いただいたことがきっかけです。この他にも、地元の木材を使って大工さんとともに企画している車中泊キットなど、地元資源を活用した商品は今後も発売していく予定です。山積する地域課題を、キャンプというキーワードに合わせて解決していくことで、〝神石高原町＝キャンプ〟という町の認識も高まり、新たな関心層へのアプローチになると感じています。

地域の方からは、自社商品をご提供いただくことに対して「うちの商品がそのラベルで売れるなら、もっとそっちで売っていって！」と言っていただいています。商品自体はこれまで通りのものなので、協力企業にとっては販路拡大に繋がり、喜ばれているようです。

そんな私たちの次の目標は、自主イベントの企画です。町内にある素敵なキャンプ場を使ったイベントや、川遊びや農業体験を行うツアーを構想中です。ツアーでは、ガイドとして一緒に回りながら、体験施設で食事をしてもらい、1日中神石高原町を楽しんでいただきたいと思っています。アウトドアを通して自然志向の人が増えた今、自然とともに暮らせるこの町への移住もぜひ検討してもらいたいです。そしていずれはJINSEKI BASEが、移住者や地域にとって、拠点になるよう動いていきたいです。

子ども世代が今の私たちと同年代になる頃、町がどんな状況かは正直わかりません。だからこそ、今始めなければ手遅れになるという状況も理解しつつ、楽しみながら活動することを大事にしたいです。そして「最近神石高原町がにぎやかみたいだね」と言われる町になるよう、これからも私たちなりの地域づくりを行っていきます。

オリジナルパッケージに詰められた商品は、メンバーと手分けして手作業でラベルをはっている。

リーダーの岸本さんからひとこと

キャンプの町として活気づくり

神石高原町には、美味しいものも美しい景色もたくさんあります。町の魅力を、キャンプを通じてみなさんに知ってもらいたいです。

JINSEKI BASEのお問い合わせ先・SNS

JINSKI BASE
公式HP・オンラインショップ

HP

令和5年度 入賞▼KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE 江田島市

令和5年度
受賞団体紹介
05

入賞

“江田島の中と外を繋ぐ空き家 "HUB SPOT" 計画”

メンバー
蛇草孝介さん
ほか４名

KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE（キリクシ コースタル ビレッジ） 江田島市

【団体プロフィール】
空き家を使った複合施設を立ち上げ、島の中と外を繋ぐ HUB となるような場所を運営する。

空き家を生かした複合施設で地域に新たな人の流れを生む

整備した複合施設には、自転車屋、魚屋、カフェ、まつ毛サロンというさまざまなジャンルの店舗が入っています。

一階のカフェスペースは、地元の方も多く利用します。小学校が目の前にあるため、保護者さんや学校の先生も立ち寄ってくれます。二階に入居するまつ毛サロンも地元の方の利用が多いようですが、サロンまでの待ち時間に一階のカフェを利用したり、帰りには母屋に隣接する魚屋さんで魚を買って帰るなど、この施設の中で楽しめるような相乗効果が生まれています。

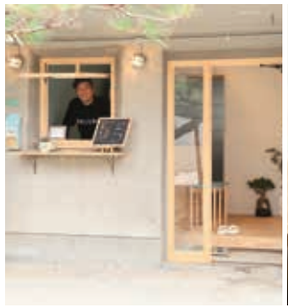
「KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE」の外観。大きな中庭を囲むような作りの建物に店舗が入る。

実は江田島は、地元の魚が島内で流通することが少なく、すぐに食べられるお店もありませんでした。そのため、江田島の漁師さんから直接買って丁寧な処理や熟成が施された魚を提供する魚屋さんができたことで、地域の方々にとても喜んでいただいております。

２０２３年４月からは、一組限定の宿泊施設もスタートしました。オープン以降、観光客の方を中心に、土日はほぼ予約が入っている状況です。海外の方が泊まられることもあります。中庭が広いので、時には宿泊者の方と一緒にＢＢＱをしながら、交流を楽しんでいます。

また地域との関わりでは、小学校や学生団体との連携も行っています。２０２３年８月には、県立広島大学のボランティアサークル「ＹＥＬＬ」と、キッザニアのような小学生向けの職場体験事業を共同で企画して実施しました。魚屋さんが用意したハンバーガーは約１００食が完売するほどの盛況ぶりでした。

地域のなかで、それぞれの店舗の良さを生かした企画をすることで、場所の認知や人の流れを作ることに繋がっていると感じています。



右上／イベント時のお客さんの様子。右下／宿泊施設の部屋。最大８名まで宿泊可能。中／カフェ「NOKAZUKI COFFEE」のパニーニは、パンから具材まで全て手作り。左／「魚商かぐら」の代表川上さんが笑顔でお迎え。人気は「かぐ丼」。カフェスペースでイートインもできる。

右・中／空間デザインの経歴を生かし、インテリアにもこだわる蛇草さん。古民家の日本家屋らしさを残しつつモダンな空間づくりをしている。左／中庭のウッドデッキでは、ライブイベント等も行われる。

作って終わりの場づくりから〝関わり続ける〟場づくりへ

私は江田島に移住する前まで、15年ほど東京で空間デザインの仕事をやっていました。しかし、2020年ごろから働き方を変えることを目的に移住を検討し始めました。東京の移住相談センターで勧められたのが江田島だったのです。島での暮らしに興味はありましたが仕事がないことが気がかりでした。しかし見学で出会った江田島市役所の方から、地域おこし協力隊として活動しないかとお誘いがあり、移住することを決めました。

協力隊としての私のミッションは、空き家バンクの運営や空き家調査です。偶然にも調査中に現在の物件を見つけ、面白い物件だったため、ここで何かできたらという思いだけで自分で購入しました。

これまでの仕事は、依頼されたものが完成すればそこで関係性が途切れることがほとんどです。しかし、オフィスなど、コミュニケーションが生まれる場所の設計に関わっていたこともあり、自分が手がけた場所がそこからどのように運用されるかを考えることに興味がありました。そのため、購入した物件を少しずつDIYしながら、複合施設を作り、自分で運営できれば、面白いのではないかと思いました。そうして、以前から興味のあった、建物から作る〝場づくり〟を自分で始めることになったのです。

私にとって、海のそばで仲間たちとの時間を楽しみながら働くのは、理想の暮らし方のひとつでした。やりたいことを詰め込んで作ったこの場所が、結果的に地域に必要な役割を担っているのは、ありがたいことだと感じます。集まってくれた仲間たちも、専門分野を持ちつつ地域活動を原点とした私の想いを理解してくれているので、とても楽しく活動できています。

蛇草さんの呼びかけにより、集まってきたメンバー。普段から、手があけばカフェに集まり、さまざまなことを話しながら良い場所になるためのアイデアを出しあっている。

地域の魅力を自ら作り出しハブスポットとして活動

この「KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE」は、古民家活用のハブスポットとしても今後機能していきたいと思っています。そのため、現在の建物のすぐ横にある古民家を購入し、4組ほど泊まれるゲストハウスとして2024年3月ごろの開業を目指しています。多機能の複合施設にすることで、古民家活用の事例紹介にも繋がると考えています。

また、施設に入居している事業者さんの専門性を活かした、ツアーコンテンツも構想中です。外から来る人に、ここを拠点にSUPや魚釣り体験などをしてもらい、ご飯を食べてのんびりと島の時間を楽しんでもらえたらいいなと思います。

この次の段階は、切串エリアを丸ごと楽しむ構想です。以前から、地域が丸ごと資源になったら面白いと思っていました。切串は、実は広島市に一番近い港があり宇品港へのフェリーもあるので利便性は良いです。しかしあまり知られていないため、私たちが地域を盛り上げてその魅力を知ってもらいたいと思っているのです。その具体例となるのが、「アルベルゴディフューゾ」です。これは、地域を丸ごとホテルのように捉えて、点在する一棟貸しの宿に泊まるというスタイルです。切串エリアが、人もお金も地域内で循環しながら楽しめる場所になり、そのハブスポットとして「KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE」を機能させていきたいと考えています。

私が大切にしているのは「楽しいことをどんどんやって魅力を発信すること」です。それは、地域おこし協力隊の活動を通して、魅力的な地域でなければ空き家があっても人は来ないと感じたからです。まず周辺地域を楽しい町にして、町が楽しそうだから空き家を見てみる、という流れを作りたいと考えます。

元々あった家で使っていた部材を使ったカフェカウンターや土壁など、建築士ならではのセンスが詰まった内装。

蛇草さんからひとこと

移住するには理想があるだからこそ見極めを

移住先を決める時には、そこで本当に自分の理想が実現できるかを見極めることも大事だと思います。江田島に興味がある方は、ぜひご相談ください！

KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE のお問い合わせ先・SNS

【KIRIKUSHI COASTAL VILLAGE】

住所：江田島市江田島町切串 2-1-2

HP

令和４年度 受賞団体も頑張っています！

令和４年度に受賞した５団体の、受賞後の変化について伺いました。「ひろしま里山グッドアワードの公式 HP では、エントリー時の詳しい活動内容が掲載されていますので、合わせてご覧ください。

令和４年度 さとやま未来大賞

株式会社リビングファーム広島

安芸高田市

【団体プロフィール】

安芸高田市にある「美土里土づくりセンター」の管理を、2020 年から受託。年間 1500 トン以上の堆肥生産を行える施設で、竹や木質をふんだんに入れた牛糞堆肥を生産している。

大賞受賞をきっかけにメディア取材や講演会依頼が増加

「美土里土づくりセンター」で作る竹チップ堆肥は、地元酪農家さんから持ち込まれた牛糞に、地域課題である荒廃した竹林の整備で出た竹をチップにし、混ぜ込んだものを約半年間かけて発酵させたものです。竹に含まれる乳酸菌の力で、米の食味値向上や野菜や花の生育もよくなるため、農家のお客様だけでなく一般家庭でも使われています。また、この堆肥はカブトムシの生育環境にも適しており、新たな用途拡大の一例としてカブトムシの養殖に取り組んでいます。その幼虫を動物の飼料などに活用する研究も進んでおり、やがては安芸高田市内での食糧やエネルギーの自給に繋げていきたいと思っています。

令和４年度のさとやま未来大賞を受賞後に「日本農業共済新聞」などに３回掲載されました。それにより、県外での講演依頼や農業関係者によるセンター視察が増加。また、堆肥を使う農家さんとの講演会では60名が集まり、堆肥に関心を持っている人が増えていると実感しています。

＜活動紹介動画を公開中！＞

「さとやま未来大賞」の副賞として制作された、株式会社リビングファーム広島の紹介動画です。こちらからぜひご覧ください！

令和４年度 未来のたね賞

一般社団法人まなびのみなと

大崎上島町

【団体プロフィール】

2019 年設立。「誰もが学びに出会う日常を」をビジョンにかかげ、大崎上島を拠点に地域と協働した子どものキャリア教育やプロジェクトの伴走支援などを行う。

大崎海星高校魅力化プロジェクトを外部から支援するために、高校生が地域と繋がるカフェの運営や、学生と地域の交流で双方に刺激を与え、「高校を起点とした町づくり」に取り組んでいます。また２０２１年から、高校生が探究学習等を行いその成果を発表する「全国高校生マイプロジェクトアワード広島県サミット」を運営しています。受賞後は、その広報に役立っているほか、島外からのカフェ来店者も増えています。

令和４年度 未来のたね賞

安田マルシェ

三次市

【団体プロフィール】

2020 年から三次市吉舎町安田にて、毎月隔週日曜日にマルシェを運営。「花笑カフェ」というカフェも経営している。

高齢化が進む吉舎町安田で「安田マルシェ」を行っています。近隣にスーパーなどがなく、食料品をすぐに買える場所を作りたいとの思いで始めました。現在は旧安田小学校グランドで開催される「安田でかマルシェ」というイベントにも発展しています。また、同会場で２０２３年10月に開催した「みちのくプロレス」興行をきっかけに、マルシェでのキッチンカー出店も増え、地域の方から喜ばれています。

つくろう！みんなとGOODなさとやま！

ひろしま里山グッドアワード

公式ホームページのご紹介

「ひろしま里山グッドアワード」の公式ホームページでは、最新の受賞団体の活動だけでなく、過去の受賞団体の事例についても掲載しています。大賞を受賞した団体には副賞としてプロモーション動画も制作されておりますので、そちらもぜひご覧ください。エントリーに興味がある方もぜひ参考にしてみてください。

公式HPはこちら

公式Facebookはこちら

これまでの大賞受賞団体の動画はこちらから！

公式ホームページ内の映像集にて、過去の団体の動画を集めて公開しております。右側のQRを読み取ってぜひご覧ください。

映像集はこちら

「ひろしま里山グッドアワード」に関するお問合せ

広島県地域政策局 中山間地域振興課

■住所：〒730-8511 広島市中区基町10番52号　■電話：082-513-2632　■FAX：082-224-1977

令和4年度 未来のたね賞

中国四国里山整備振興会

世羅郡世羅町

【団体プロフィール】

2014年に発足した、竹林整備などを行う団体。世羅町の竹林を中心に各地で伐採などの整備を行い、牡蠣養殖業へ筏に使われる竹材を販売している。

牡蠣筏に使われる孟宗竹の中でも、良質な竹材を選別して切り出し販売しています。そのほか、竹林整備で出た竹をパウダーにした堆肥の製造・販売等を行っています。受賞後には新しいメンバーも加わり、それぞれが本業とバランスをとりながら楽しんで活動しております。堆肥製造においては、新しい協力者ができたことで効率的な製造が可能になりつつあり、今後は事業として確立できたらと考えています。

令和4年度 未来のたね賞

一般社団法人地域QOL研究所

安芸高田市

【団体プロフィール】

安芸高田市を拠点に活動する、非営利の地域づくりコンサルティング。地域の生活の質の向上を目的とした企画や研究などを行っている。

空き家や耕作放棄地といった地域課題を〝未利用資源＝この地域の魅力〟としてとらえ、地域のQOL（生活の質）に関するニーズを元に活動しています。受賞後本格的に始まった旧小田東小学校を活用した「SDGs研修センター」では、令和5年12月10日に広島修道大学の学生の協力のもと「SDGsフェスタ」を開催。飲食ブースやワークショップ、ライブなどを通して地域の人々との交流を行うことができました。

Hiroshima Satoyama Good Award

ENERGY
OF
PEACE
ひろしま